レッスン：15"A"

テーマ：想念（思考）としてのマインド

TMIND15A.DOC/AEN.

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火から生じた子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖性の中に包まれています。

　　絶対存在は無数の聖なるモナドから構成されており、各聖なるモナドは無数のHoly Monad Spirit Being（聖なるモナドである霊的存在）から構成されています。

質的には各聖なるモナドは絶対存在と同じ属性を有していますが、量的には絶対存在の無限小的な微小な部分です。

Holy Monad Spirit Beingがイデアを通じて下降することが決まると（人間の場合は人間のイデアを通じて）、特定の目的のために何らかの体験をするために、私たちのHoly Monad Spirit Being Self（聖なるモナドとしての霊的存在であるセルフ）からほんの微小な輝きが創造界の中へと輝き出ます。

　　学ぶという目的のために、私たちは人間を永遠の存在であるという観点から見てみましょう。人間はその核として、いかなる形状的制限、いかなる欠乏、いかなる制限もないHoly Monad Spirit Selfからの輝きを有しています。人間の場合、この輝きは人間のイデアを通過して、魂のセルフ・エピグノーシスとしての状態となります。

　　また、人間がさらにいわゆる永遠のアトム、あるいはMateriopsychonoetical Atomという乗り物を使用することによって、下の創造界（複数）に下降する状態を見てみましょう。

それは何処から来るのでしょうか？それはより低次の３つのヘブンに入ることができる魂のセルフ・エピグノーシスからのスパークです。

一度、この永遠のアトムのスパークがこのような低次元まで下降すると、それは無知の中に囲まれてしまい、元々は光から下降したにもかかわらず、光に関して完全に記憶喪失状態に陥ってしまいます。

勿論、このスパークが無知に囲まれてしまうのには目的があります。低次の３つのヘブンへの下降とは、制限、ニーズ（＊必要性、欠乏）、物質の世界へ入ることを意味します。

下降する前の源からの知識と自己実現に到達しようとする努力は、この永遠のアトムを多くの様々な体験へと導きます。

それらの体験には良いものもあれば悪いものもありますが、それはそれぞれのパーソナリティーが到達した思考と行動のレベルによります。学びは物質の魅力、および現在のパーソナリティーがイリュージョンに執着する様々な仕方に対する戦いを通じて得られるものです。

　　これ以降は、人間はスーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質というような種々なレベルの波動の現れによるマインドを通じてのみ体験することができるのです。ですから、あらゆるものはマインド、様々な波動のマインドなのです。

　　それ自身のアウタルキー（自足状態）にある絶対存在はそれ自身の内に全てを有し、明らかにその中では絶対英知、絶対善、絶対パワーとしてのその本質的特質が現れています。絶対存在は永遠にそれ自身の中で黙想し、絶対存在が"voulete"（＊英語にはない言葉ですが、神の意志を意味するvoulesisという言葉から、神が意志するという意味だと思われます…訳注）する瞬間から、絶対存在はキリストロゴスと聖霊を通じてそれ自身の聖なる意志を表現することを意図するようになります。何かを表現するためには、キリストロゴスと聖霊は表現するための材料が必要となります。そのために絶対存在はその表現の手段としてマインドを創造したのです。

Page2

 スーパーサブスタンスとしてのマインドの波動は、達成しようと望む現れに応じて使用されます。私たちはこのスーパーサブスタンスであるマインドを、その波動のレベルと使用に応じて様々な波動に分けます。

　　その波動としてのサブスタンスがあり、それを通じて宇宙（複数）が築かれています。

私たちはノエティカル界では、フォームと形態という制限を伴うアイディアが存在する思考（想念）を形成するために、サブスタンスを使用します。

サイキカル界では超物質（supermatter)を使用しますが、それにはフォームがありません。サイキカル界でフォームを持つためには、私たちはノエティカル界の心の思考（mind-thought)に感情という衣を着せる必要があります。言い替えれば、私たちが何かを考えることによって思考あるいは一連の想念が生じる時、それに自分が望む感情を付与するためにはサイキカル界の超物質という衣を着せなければならないのです。

　　高次ノエティカル界、およびノエティック界における想念・思考については、私たちにとって非常に理解しがたいものがあります。それらは私たちが触れることのできない世界であり、私たちが一般に理解しているような世界ではありません。それらの世界はフォームを越えており、少なくとも私たちが知っているようなタイプのフォームではないのです。それらは魂のセルフ・エピグノーシス（Soul Self-Epignosis)の世界であり、いわゆる想念・思考のようなものは存在しない代りに、同化があり、そこでは全ては全ての中にあるのです。

現段階では、ノエティックおよび高次ノエティカル界からのイデアがどのようにしてフォームという意味の中に下降するのか、また黙想を通じてそれがいかにして種々の世界でフォームを創造するのかに関しては特に触れません。

それでは黙想とは何であり、その源はどこにあるのでしょうか？源は人間の知性では理解不可能なスーパーサブスタンスとしてのマインドなのですが、それを通じて汎宇宙的潜在意識に到達することができ、その汎宇宙の潜在意識的マインドの中にはイメージ、像その他全てが記録されています。

人間があるアイディアについて黙想し始めると、彼はマインドを使ってそれを描き、形態を付与し、それは彼自身の個人的な想念・思考の産物となります。

　　想念は多くの様々な種類のマインドと関係します。想念として具体的な存在になるためには、それはサブスタンス、超物質、物質のそれぞれのエーテル的波動を通過しなければなりません。

　　輝きとしての想念はノエティックな波動から始まり、ノエティカル界に下降し、さらに下降していきます。実際、想念の具体的なフォームは、本当は想念の影であり、それは最も低次の世界の中で具体的な存在としてフォームを帯びた想念なのです。イメージ、フォーム（form）、形（shape）が、Lifeの現象の現れの世界における存在とみなされるためには、物質界で必ずしも形を帯びる必要はありません。（＊形はフォームがより明確に形を帯びた状態を指すものと思われます…訳注）　なぜなら、サイキカル界およびノエティカル界は依然としてLifeの現象の現れの世界だからです。創造は元型、イデア、法則、原因の建築的構造に依存します。創造界に存在するあらゆるものは、法則、全てがそれに従う限界と制限のある法則に基づく構造の中に既に存在しているのです。それらは不動の法則であり、それらの法則がLifeの現象の世界の中で妨害されると、アンバランスが生じ、バランスを取り戻すために原因と結果の法則が働き始めます。

　**偶然は何ひとつありません。**

イエスが言ったように、全ては計られ、あなたの頭の一本の髪の毛ですら考慮されているのです。

　　絶対存在の動的局面をアークエンジェル(Archangels、大天使)を通じて表現する聖霊は、スーパーサブスタンスとしてのマインドを使用します。ノエティック界には元型、イデア、法則、原因の世界があり、それらは最も精妙なスーパーサブスタンスのマインドによって築かれています。アークエンジェルがそれらについて黙想すると、その黙想の結果は何らかの目的、何らかのブレーシス（＊神の意志）の表現となるのです。イデアが生きたフォームを帯びるようになるのは、継続的にそのイデアにマインドの種々のフォームと種類を着せることによってです。私たちには、私たちが普段知っている物質界があります。私たちが住んでいる惑星地球には海、山、森、川があり、さらに動物・植物界の無数の生命体が住んでいます。特定の環境内に、私たちは自分たちの心が欲する快適さを求めて家を築きます。ある意味では、生の素材および大地は私たちに与えられたものであり、私たちは自分たちが最も快適だと感じる仕方でそれらをアレンジします。

Page3

 同じように、私たちにはサイキカル界があり、そこにはさらに亜層があります。それらは人間が物質界を去る時のために既に創造されています。

 一般に人間は全てをサイコノエティカル界に持ち込み、自分の考え方と行動、自分の欲望と思考に応じて自分自身の環境を築くのです。なぜなら、それらの世界はサイキカルおよびノエティカルなフォームの世界だからです。しかし、人間は単に物質界で持っていた全てを移行させるだけではなく、自分が住むことになる特定の世界のルールと共に動くことを学ばなければなりません。勿論、不可視のヘルパーたちが助けてくれます。

 人間はノエティカル界、サイキカル界、物質界において同時に築くことができます。

物質界で固定したフォームとして見える物は全て、ノエティカルおよびサイキカル界からのアイディアの概念を通じて来たのです。

ですから、ノエティカルおよびサイキカル界には物質界に存在するよりも多数のフォームが存在する、と考える必要があります！

 それでは、想念の中にイメージを築くことなくその想念を抱くことは可能でしょうか？不可能です。それがエーテル・ノエティカルであろうとエーテル・サイキカルであろうと、想念はフォームであると見なすことができます。そして物質界でのその現れは特定のフォームを帯びています。フォームを帯びるためには、それは源としてイデアからスタートしなければならないのです。

 諸宇宙を元型、イデア、法則、原因として創造するために神が黙想した結果、私たちにはスーパーサブスタンスとしてのマインドの波動があるのです。種々のアイディア、フォームの特定の実在性と形を与えるマインドの波動があります。このアイディアとしてのフォームが特定の実在性を帯びると、サブスタンスの波動としてのマインドがあり、それは特定の形の中で想念として表現されます。ここにはサブスタンスとしてのマインドの波動があります。

　　次に、サブスタンスを通じてフォームと形の結果として特定の想念が投射されます。次に、この特定の想念が感情を表現できるような仕方で使用されるマインドの波動があります。ここでは超物質としてのマインドの波動があります。サブスタンスを通じた想念としての表現、そして超物質を通じた感情としての表現があります。さらに、物質界においていわゆる物質と呼ばれるマインドの波動としての表現があり、その表現には制限があります。

　　スーパーサブスタンスとしてのマインドは神の黙想の結果です。キリストロゴスと聖霊はスーパーサブスタンスとしてのマインドを使って、サブスタンス・超物質・物質の各波動においてLifeの現象の世界を築くのです。様々なアークエンジェルのグループは黙想を通じて、Life（生）としてではなくLifeの現象としての表現に特定の形を与えます。

　　想念・思考は神の黙想の現れではなく、むしろ想念・思考および感情の世界における現れの結果です。スーパーサブスタンスの諸世界の中にはLifeそれ自体の現れがあり、サブスタンス、超物質、物質としてのマインドの波動の中にはLifeの現象があります。

　　**頭脳あるいは心とその機能については様々な見解があります。エレブナは頭脳を、それが十分かつ適切な充電がなされた時には、（汎宇宙的）潜在意識のマインド(Subconscious Mind)からの知識および英知として、同量のものを発する一種のバッテリーと見なします。**

しかし、何が浮上しても全て、（各人の）思考・行動（の癖）としてのパーソナリティーというフィルターを通過した解釈を被るのです。

パーソナリティーがうまく対処できない場合には、パーソナリティーは眠ってしまうか、あるいは興味を喪失するのです。

　　しかし、例えば、授業が行なわれている教室にそのパーソナリティーが留まっていれば、スピーチの波動はその人の潜在意識の心に記録され、別の時間・空間において同様の刺激が与えられた時に、そのパーソナリティーは無意識のうちにその知識としてのレッスンから引き出すことができるのです。想念的欲望および欲望的想念のエレメンタルを形成する上での想念の使用に関しては、別の機会に譲ります。

　　スーパーサブスタンスであるマインド(Mind)はエーテル・バイタリティー（エーテル活力）から作られると言うこともできます。真理の探究者として私たちは、あらゆる所で豊富に利用できるこのエーテル・バイタリティーの使用を徐々に学んでいきます。

　　まず最初に、３つの重要なエーテル…運動エーテル、感覚エーテル、刻印エーテル…を使用することについて学びます。創造エーテルは聖霊の守備範囲にあり、私たちが上に述べた３つのエーテルのマスター、そして３つの体のマスター、主人となった時に私たちに教えられます。アンバランスな人間が創造エーテルを使用すると益するどころか、呪いとなります。なぜなら、その人はこのパワーを適切に使用せず、誤用するようになるからです。

　　ですから、真理の探究者としてはこれら３つのエーテルのマスター、主人になることが大切です。なぜなら、それらをうまく扱えなければ、同胞である人間の苦痛を効果的に軽減することはできないからです。想念の正しい像、イメージを形成する能力の育成、およびそれらの適切な使用を学ぶことは非常に重要です。

　　**人間の理解においては、想念は実存の世界のものです。人間は想念・思考を通じて考えます。しかしながら、人間の特質を表現する手段として、その本質そのものが表現されているのは想念・思考においてではありません。感情・気持のない想念・思考は完全であり、それは想念・思考としてではなく黙想として投射されます**。

　　エーテルをマスターするためのエクササイズは定期的に行う必要があることを再度ここで述べておきます。

私たちは常に神、絶対、神の聖性の中に抱かれています。

EREVNA TMIND15ADOC.AEN/15A/4END